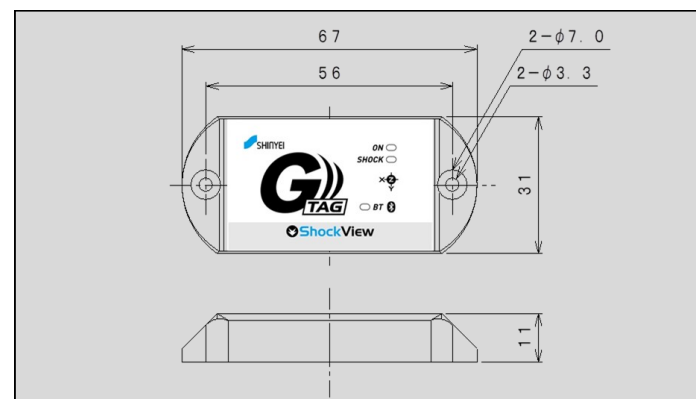


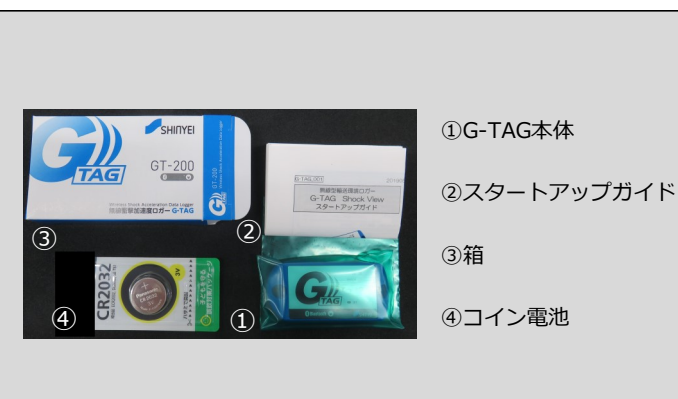
仕様

品名	無線型輸送環境ロガー G-TAG（アプリケーション：Shock View）
型式	GT200
加速度範囲	±200G（3軸 MEMS）
サンプリングレート	1600Hz（0.625ms）
記録データ	衝撃発生時刻、3軸最大加速度
計測方法	加速度トリガー方式
しきい値	5、10、15、20、25、37、50、75、100Gから任意設定
通信部	Bluetooth 4.1 GATT 対応
電源	CR2032×1（計測日数：最大20日@20℃）
記録データ容量	最大200データ[1データ：日時・合成・Z・X・Y軸]（データ上書き機能付）
サイズ / 質量	67×31×11mm / 23g（電池含む）
電池寿命	最大約20日
動作温度範囲	-40℃～85℃（結露無きこと）
アプリケーション	iOS 11以上対応（計測設定、データ表示、データ送付）  専用アプリダウンロードQRコード

外観寸法



梱包仕様



神栄テクノロジー株式会社は、衝撃校正におけるISO/IEC17025認定校正事業者として、加速度校正技術を展開しており、自社で製造出荷するG-TAG全数に対して加速度の感度調整と校正を行っており、ハードとソフトの両面から、信頼性の高い加速度計測を提供いたします。

校正および修理対応も受け付けており、万全の体制でアフターメンテナンスへも対応いたします。

製造元

豊かな社会へのパートナー 神栄グループ
SHINYEI 神栄テクノロジー株式会社
<http://www.shinyei-tm.co.jp>

神戸 〒650-0047 神戸市中央区港島南町6-5-2
TEL. 078-304-6795 FAX. 078-302-1225
つくば 〒300-2657 茨城県つくば市香取台B47街区11画地
TEL. 029-848-3571 FAX. 029-848-3572



無線型輸送環境記録計 Wireless Shock Acceleration Data Logger

G-TAG ShockView



ShockView は、物流の中で荷物が受けた衝撃を数値化し、その日時まで特定することが出来る小型記録計です。

各種設定からレポートの自動作成まで、すべての操作はスマートフォンのみで簡単に行うことができます。

Bluetooth 通信機能により、例えばダンボール箱の中に入った ShockView を外部から操作したりデータを取り出したりすることもできます。



輸送中の衝撃を一元管理



仕分け作業



輸送



配達

G-TAG とは？

G-TAG ShockViewは、3軸加速度センサを搭載した小型記録計で、製品の物流過程で発生する落下事象の記録や、包装落下試験で内容品に発生する衝撃加速度を計測する目的に利用できます。

これまでの記録計は、USBケーブルでPCと接続し、計測設定やデータダウンロードを行うシステムが一般的であるため、データ確認を行う場合は梱包箱から一度記録計を取り出す手間がありました。そこで、G-TAG ShockViewは無線通信モジュールを搭載することで、ケーブルレスで携帯端末から直接、データアクセスができるため、梱包内に設置後にも開梱することなく、現場で即座に調査結果を把握できます。



従来記録計による調査フロー



G-TAGによる調査フロー



用途例

・物流過程をモニタリング

貨物輸送途中に計測データを確認することで、製品破損を察知

・製品発生衝撃加速度計測（落下試験）

製品に取り付けることで、製品発生加速度を計測

・荷扱い教育用ツール

携帯端末を用いた簡易操作により、誰もがその場で計測可能

・輸送物の品質保証

データはPDF出力のため、劣悪荷扱い時のデータ改ざんの防止、輸送時の製品破損トラブルの防止にも



梱包物落下時の
製品発生衝撃値を確認

軽く小さい製品を模擬し
発生衝撃値から緩衝設計改善

主な特徴

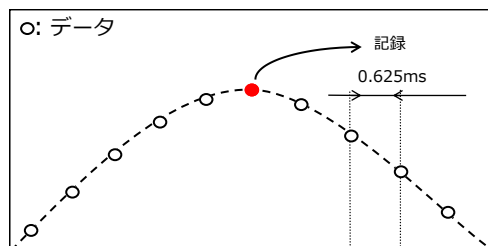
□ 「小型」「軽量」「安価」「高性能」全てを備えた輸送環境ロガー

小型・軽量でどこにでも設置可能な上、1600Hz(1秒間1600回計測[0.625ms])という非常に高いサンプリングで発生衝撃を取り逃しません。また非常にリーズナブルなため、多ロット・複数同時計測をする場合にも容易に導入可能。



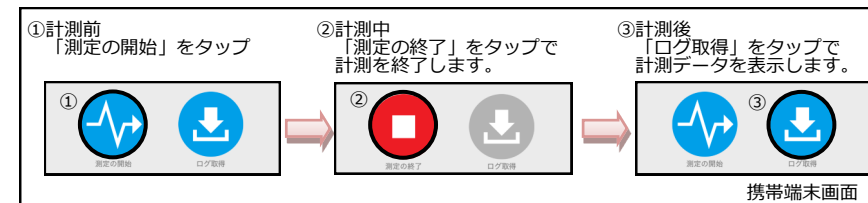
□ 製品・貨物に発生する「ピーク加速度」を長期間漏れなく記録

コイン電池1つで最長20日間のピーク加速度が記録でき、長期間の輸送にも対応可能です。また記録データ容量が最大に達した場合、小さい加速度からデータを上書きする機能があるため、最大発生加速度を確実に記録します。今まで原因の特定が困難だった輸送時の落下による破損や破壊の瞬間の日時と加速度値を捕らえて記録するため、輸送物の品質保証確認に最適です。



□ 携帯端末を用いて簡単操作。梱包状態で計測・データ表示が可能。

専用アプリケーションにより、各種設定・計測および計測データの読み込みをBluetoothを用いて携帯端末で行えるため、梱包物の中に入れてそのまま操作可能。使用する際は誰でもワンタッチで計測可能。計測データはPDF出力であり、そのままレポートとして利用できます。



使用方法

計測準備

- 専用アプリケーション「Shock View」をApp Storeで検索、スマートフォン/タブレット端末にインストールして下さい。
(対応OS: iOS 11.0以降)
- 電池を入れたG-TAGを準備し、
端末画面で使用するG-TAGを登録してください。

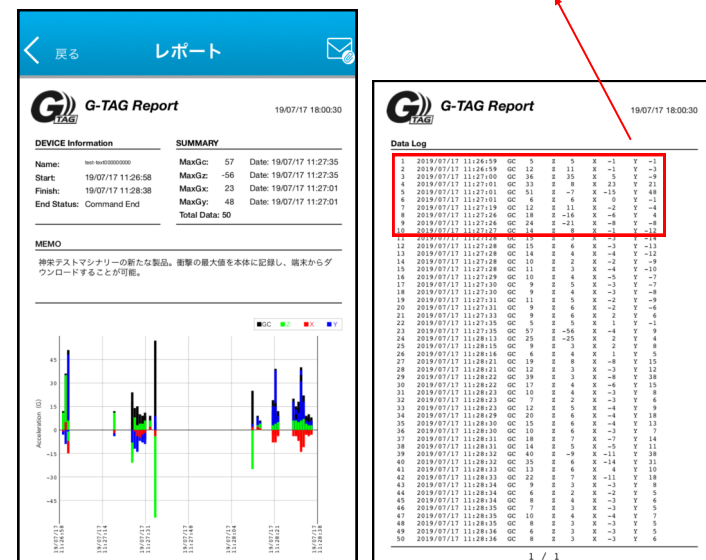
1	2019/07/17	11:26:59	GC	5	Z	5	X	-1	Y	-1
2	2019/07/17	11:26:59	GC	12	Z	11	X	-1	Y	-3
3	2019/07/17	11:27:00	GC	36	Z	35	X	5	Y	-9
4	2019/07/17	11:27:01	GC	33	Z	8	X	23	Y	21
5	2019/07/17	11:27:01	GC	51	Z	-7	X	-15	Y	48
6	2019/07/17	11:27:01	GC	6	Z	6	X	0	Y	-1
7	2019/07/17	11:27:19	GC	12	Z	11	X	-2	Y	-4
8	2019/07/17	11:27:26	GC	18	Z	-16	X	-6	Y	4
9	2019/07/17	11:27:26	GC	24	Z	-21	X	-8	Y	-8
10	2019/07/17	11:27:27	GC	14	Z	8	X	-1	Y	-12

計測

- 「Shock View」上で各種計測設定を行います
(「計測設定 (Shock View)」参照)。
- 両面テープまたはネジ止め等を用い、
G-TAGを計測対象へ設置します。
- 「Shock View」上で「測定の開始」をタップし、計測します。

計測データの取り出し

- 計測終了後、Bluetooth通信にて「Shock View」上で
「測定終了」をタップするか、G-TAGの電池を入れ直して
端末とG-TAGを接続します。
- 「Shock View」上で「ログ取得」をタップし、
G-TAGの中のメモリから端末へ計測データを取り込みます。
- 「保存ログ」をタップ、計測データを選択し、
レポート (PDF) を閲覧・管理します (メール転送可能)。



レポート画面